

令和7年度 全国学力・学習状況調査
教科に関する調査結果及び考察について

保護者の皆様へ

白河市立表郷中学校長

令和7年4月17日に実施しました「全国学力・学習状況調査」の教科に関する調査結果及び考察についてお知らせいたします。

この調査は、学校における生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てることなどを目的としています。

調査対象は3年生で、国語、数学、理科の3教科を実施しました。

本校では、教科に関する調査結果とその考察、ならびに指導方法を改善する取組をお知らせし、学校と保護者や地域の方々がともに手を携えて、生徒の学力向上や学習環境などの改善に取り組んで参りたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の一部であること、また、学校における教育活動の一側面の結果であることをご理解ください。

【本校と全国の平均正答率比較】

教科	全国平均 正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
国語	54.3%			○		
数学	48.3%			○		
理科	503点 (IRTスコア)				○	

※中学校理科がC B T（コンピューターテスト）により実施され、学校ごとに出題された問題が異なることから、「平均正答率」に代わり「IRTスコア」という指標が使われるようになりました。

「IRTスコア」とは国際的な学力調査で採用されているテスト理論で、この理論を使うと異なる問題から構成される試験の結果を同じものさし（尺度）で比較できます。なお、標準点は500点となっております。

【国語：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領 域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
言葉の特徴や使い方に関する事項	48.1%	○				
話すこと・聞くこと	53.2%			○		
書くこと	52.8%				○	
読むこと	62.3%	○				

【考 察】

- 「書くこと」の領域では、全国平均を上回る結果となりました。特に、文章の修正すべき点を指摘してその理由を述べる問題の正答率が高く、無回答もほとんどありませんでした。日頃から課題に対して自分の意見をもって学習に取り組んでいることが、成果につながっています。
- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」「読むこと」の領域では、複数の選択肢から適切なものを選ぶ問題で誤答が見られました。様々な場面で言葉に関心をもたせる学習活動を工夫し、適切な言語感覚を養うことができるよう今後も支援してまいります。

【数学：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領 域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
数と式	43.5%				○	
図 形	46.5%			○		
関 数	48.2%					○
データの活用	58.6%	○				

【考 察】

- 「関数」の領域では、全国平均を上回りました。今後は、グラフを用いて説明する記述式の問題では無解答が多く見られましたので、答えを求めるだけでなく、求める過程を書いたり説明し伝え合ったりする活動を多く取り入れ、表現活動の充実を図ってまいります。
- 「データの活用」の領域では、相対度数の求め方の理解が不十分でした。不確定な事象について考察するために必要な、表やグラフを正しく読み取り、処理できる力を高められるように授業を工夫して進めていきます。

【理科：本校と全国の領域別平均正答率比較】

※理科については、一部の共通問題を除き、学校ごとに出題された問題が異なり、かつ公表されている問題も全体の4割程度となっており、国語や数学のように領域別の正答率が提供されていないことから、考察のみ記載いたします。

【考 察】

- 情報の信頼性について考える問題に対する正答率が高い結果となりました。授業でのICTを活用した調べ学習や実験結果について、理由をはっきりとさせて考えを記述する活動を続けている成果だと考えます。また、日常の科学の事象について答える問題に対する正答率もよく、生活経験が豊富な生徒が多いことがうかがえます。
- 元素記号や生物の用語など、基本的な知識や技能の定着に課題が見られました。実験に対する結果を予想することなど科学的な見方や考え方をもって取り組む学習活動が苦手であると考えられます。科学的な用語や記号を確認したり、仮説や予想の根拠を明確にしたりする時間を授業の中に位置づけ、改善できるように支援してまいります。